

感謝の気持ち込め カレー振る舞う

東京都大生

【水見】

水見市中央町の旧海鮮館をリニューアルする漁業交流施設に展示するため、漁具などを集めるワークショップを行った東京都大の学生は30日、同館で協力を受けた市民に感謝の気持ちを込めて手作りのカレーを振る舞った。

漁業交流施設は来春オープンを目指しており、同大教授の手塚貴晴さんが設計や監修を担当する。今回は手塚さんの研究室の学生が24日から、



来場者に手作りのカレーを振る舞う学生

水見らしさを伝える漁具や生活用品を市民から募った。

30日はワークショップ最終日で11人の学生が集合。タマネギやリンゴ、トマトなどを煮込み、香辛料を利かせたインド風のカレー100人前を作って訪れた協力者をもてなした。

この日までにガラス玉や竹かごといった漁具を中心に1500点以上が集まった。展示品は、市漁業交流施設整備推進室が収集を続ける。

■この記事・写真等は北日本新聞社の許諾を得て転載しています。
無断で複製等、著作権を侵害する一切の行為を禁止します。

学校法人 五島育英会